

2014年 4月8日

新宿区長 へ

法人名 認定NPO 法人まちぽっと  
 所在地 新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル501  
 (フリガナ) ササキ タカコ  
 代表者氏名 理事長 佐々木 貴子 ㊞

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

## 1 助成対象事業

事業名	新宿区から始まる、これからの社会貢献のかたち 一税控除を受けながら資産を社会に生かす方法一
実施日時又は期間	実行委員会； 2013年7月1日～2014年2月17日 企画実施日； 8月1日、10月30日、12月19日、1月25日
対象者の範囲及び人数	対象範囲； 新宿区民を中心とした社会貢献に関心のある市民と専門家 対象人数； 各回30名程度を想定
事業内容	<p>当事業は、2012年10月22日に新宿区と新宿区社会福祉協議会の後援をいただいて開催したフォーラム『新宿区から始まる「新しい公共」と資産の社会活用』の経験をもとに、その内容を一般の区民に分かりやすく伝え、また小さい規模で地域内開催するために行われた。</p> <p>全4回の小規模な「資産の社会活用学習会（セミナー）」は、税優遇制度を生かしながら資産の一部を社会や未来に生かす仕組みを広く伝え、最終的には新宿区に住むたくさんの方々の生活環境が向上することを目的として開催した。</p> <p>当企画には、地域性と社会貢献における多様性が必要であるため、新宿区内に事務所を持つ市民ファンド「認定NPO 法人高木仁三郎市民科学基金」と「公益社団法人難民起業サポートファンド」のご協力を得た。また専門的な知見を得るために、NPOにおける会計分野と法律分野の第一人者である、早坂毅税理士と濱口博史弁護士のご協力をいただきNPO まちぽっとを中心とした5者による実行委員会形式で事業を行った。実行委員会は月に1回のペースで行われ、毎回の結果をもとに内容のブラッシュアップをし、また最新の社会状況とも照らし合わせていった。</p> <p>企画には、新宿区社会福祉協議会、一般社団法人新宿NPOネットワーク協議会、市民ファンド推進連絡会からのご後援をいただいた。</p>

	<p>企画内容については、第2回目以降は基本的な進行を以下のように固めて行った。また第2回以降毎回行った「社会貢献講談」は、この企画のために新作を作成していただいた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、講談師による「社会貢献講談」</li> <li>2、税理士による「社会貢献と相続セミナー」</li> <li>3、新宿で活動するNPO活動の紹介</li> <li>4、社会貢献を進めるための市民ファンドの紹介</li> </ol>
<p>具体的な活動状況</p>	<p><b>実行委員会)</b>      実行委員会は、以下の日程で行われた。      2013年7月4日、7月31日、8月16日、8月26日、9月17日、      10月8日、11月22日      2014年1月21日、2月17日 全9回</p> <p><b>セミナー)</b>  <b>●第1回セミナー</b>      日時；8月1日（木）14:00～16:00      場所；新宿NPO協働推進センター      内容； 1) 新宿で活動する市民ファンドを活用した社会貢献              藤川泰志氏（ちょうふ市民放射能測定室）                      × 菅波完氏（高木仁三郎市民科学基金）              森山誉恵氏（特定非営利活動法人3Keys）                      × 奥田裕之（NPOまちぽっと）              2) 税優遇を受けながら資産を社会に生かす方法              早坂毅氏（税理士）      来場者； 11名</p> <p><b>●第2回セミナー</b>      日時；10月30日（水）14:00～16:00      場所；桜美林大学 四谷キャンパス      内容； 1) 講談「カミサマの帰るところ」              神田織音氏（講談師）                      × 菅波完氏（高木仁三郎市民科学基金）              2) 新宿区で活動する社会貢献団体              江守靖氏（CCS世界の子どもと手をつなぐ学生の会）                      × 奥田裕之（NPOまちぽっと）              3) 税優遇を受けながら資産を社会に生かす方法              早坂毅氏（税理士）              * 企画終了後に個別相談会      来場者； 16名</p> <p><b>●第3回セミナー</b>      日時；12月19日（木）14:00～16:00      場所；牛込笹笹地域センター      内容； 1) 税控除で資産を社会に生かす方法              早坂毅氏（税理士）              2) 講談「カミサマの帰るところ」              神田織音氏（講談師）</p>

	<p style="text-align: center;">× 吉山昌氏（難民支援サポートファンド）</p> <p>3) 新宿区で活動する社会貢献団体 朝倉景樹氏（東京シューレ）</p> <p style="text-align: center;">× 奥田裕之（NPO まちぽっと）</p> <p style="text-align: center;">* 企画終了後に個別相談会</p> <p>来場者； 14名</p> <p>●第4回セミナー</p> <p>日時；1月25日（土）14:00～16:00</p> <p>場所；戸塚地域センター</p> <p>内容； 1) 税控除で資産を社会に生かす方法 早坂毅氏（税理士）</p> <p>2) 講談「カミサマの帰るところ」 神田織音氏（講談師）</p> <p style="text-align: center;">× 吉山昌氏（難民支援サポートファンド）</p> <p>3) 新宿区で活動する社会貢献団体 中西久恵氏（CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会）</p> <p style="text-align: center;">× 奥田裕之（NPO まちぽっと）</p> <p style="text-align: center;">* 企画終了後に個別相談会</p> <p>来場者； 14名</p>
<p style="text-align: center;">事業の成果</p>	<p>今回の事業では、新宿区内に事務所を持っている市民ファンドと非営利活動を専門的な知見から推進している専門家のご協力を得、講談師に社会貢献をテーマにした新作を作成していただいて、区民を中心に「資産を社会に活用するこれからの社会のかたち」を提案した。</p> <p>その結果、一般の方に分かりやすい資産活用を中心とした社会貢献の説明スキームを形成することが出来た。このような専門性と一般性を兼ね備えた内容は、日本初だと思われる。</p> <p>内容的にも、講談を活用した面白く誰にでも分かる社会的活動の意義、実際に新宿区で活動している様々な社会貢献団体の実態、1年後の相続税及び贈与税の税制改正を視野に入れた寄付の方法など、レベルが高く理解しやすい社会貢献の説明パッケージが完成したと思われる。来場者からも評価が高く、企画参加後の個別相談会もほぼ毎回2,3名からのご相談を受けた。</p> <p>一方で集客に課題を残した。地域性を重視してチラシを地域センター、図書館、シニア活動館など、区内60ヶ所へ配布し、区の掲示板102ヶ所に毎回掲載したほか、新聞折込、チラシ撒き、口コミ、地域内でのご紹介、郵送など毎回様々な方法で広報を行ったが、各回目標30名のところ15名程度の集客に留まった。理由として「資産による社会貢献」という言い方が、資産家を対象としたように受け取られたことがあったと考えられる。資産家に限らず一般の区民を対象としたのだが、タイトルや打ち出し方に工夫が必要だった。</p> <p>全体を通して、数は目標に及ばなかったが来場者には評価が高かったこと、日本初の試みであり内容にオリジナリティが高かったこと、新宿区内の市民ファンドと専門家のネットワークが形成されたこと、広い広報を通して活動を知っていただけた区民が多かったことが、今回の事業成果だと考えている。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			230,810 円
	参加費・資料代等	500 円×43 名（毎回3名地域のご招待で無料）		21,500 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		400,000 円
	計			652,310 円
支出 （助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳	
	会議費	17,150 円	8/1 新宿 NPO 協働推進センター会議室 1050 円、12/19 牛込笹塚地域センターホール 4,000 円、1/25 戸塚地域センターホール 4,400 円 実行委員会会議室（ASK ビル4階）500 円×9 回 2013 年 7 月 4 日、7 月 31 日、8 月 16 日、8 月 26 日、9 月 17 日、10 月 8 日、11 月 22 日、2014 年 1 月 21 日、2 月 17 日 =4,500 円 13:00~16:00 会議用資料コピー代 @4 円×800 枚=3,200 円	
	宣伝費	123,458 円	資料カラーコピー @20 円×300 枚×4 回 24,000 円 チラシ印刷（A4 両面カラー）4 回 17,160 円+19,010 円+11,960 円+10,510 円 =58,640 円 新聞折込 2 回 17,151 円+21,882 円 =39,033 円 チラシ新聞折込輸送 1,785 円	
	リース費	6,930 円	緋毛氈 2,310 円×3	
	消耗品費	16,000 円	長3封筒 @5 円×1,000 枚 =5,000 円 コピー用紙 1 円×3,000 枚 =3,000 円 印刷機インク代 8,000 円	
	謝礼	250,628 円	講師謝礼 10,000 円×5 名=50,000 円 講談師謝金 30,000 円×3 回=90,000 円  専門家謝金（早坂税理士）10,000 円×4 回=40,000 円 専門家謝金（濱口弁護士）5,000 円×4 回=20,000 円 * 実行委員会・企画、交通費含む  12/11,16 チラシ撒きボランティア 上本志保、横山裕大、渡辺りえ（2 回）4 名×5,157 円=20,628 円  チラシデザイン・作製 全4 回（全体で3万円） 佐々木美貴	

人件費	124,000 円	まちぽっと人件費 2 名 (奥田裕之、辻利夫) @4,000 円×13 回×2 人 (企画 4 回+実行委員会 9 回・準備含め各 4 時間) =104,000 円 まちぽっと人件費 1 名 (奥田裕之) @4,000 円×5 回×1 人 (講談師打合せ 1、専門家打合せ 4・各 4 時間) =20,000 円 講談師打合せ (7 月 1 日 13:00~17:00) 専門家打合せ (6 月 5 日、6 日、24 日、25 日 各 13:00~17:00)
交通費	24,640 円	奥田 / 講談師打合せ 往復 600 円×4 回 = <u>2,400 円</u> 東新宿 ⇄ 大山 奥田 / 桜美林大学企画協力依頼、終了後報告 往復 1,880 円×2 回 = <u>3,760 円</u> 東新宿 ⇄ 淵野辺 ⇄ 桜美林大学・バス (9 月 9 日、11 月 5 日) 奥田 / 濱口博史弁護士・相談 往復 380 円×2 回= <u>760 円</u> 東新宿 ⇄ 神谷町 (6 月 5 日、24 日) 奥田 / 早坂毅税理士・相談 往復 1,300 円×2 回= <u>2,600 円</u> 東新宿 ⇄ 伊勢佐木長者町 (6 月 6 日、25 日) 奥田、辻 セミナー交通費 <u>2240 円</u> 第 1,4 回 新宿⇄高田馬場 230 円×2 名×2 第 2 回 東新宿⇄四ツ谷 320 円×2 名 第 3 回 東新宿⇄牛込神楽坂 340 円×2 名 菅波、吉山/講談師打合せ 往復 600 円×4 回×2 名 <u>4,800 円</u> 四ツ谷⇄大山 (実行委員) 菅波、吉山/実行委員会 往復 320 円×9 回×2 名 <u>5,760 円</u> 四ツ谷⇄東新宿 菅波、吉山 セミナー交通費 <u>2,320 円</u> 第 1,4 回 四ツ谷⇄高田馬場 320 円×2 名×2 回 1,280 円 第 3 回 四ツ谷⇄牛込神楽坂 520 円×2 名 1,040 円
その他諸経費	69,504 円	振込手数料 9 回 2,624 円 企画お知らせ送付ヤマト運輸 (336 通) 11,600 円+ 15,280 円 =26,880 円 新作講談作成料 40,000 円 (4 回の事前相談と 3 回の修正作業含む)
助成対象事業費 (小計)	632,310 円	
余 剰 金	0 円	
助成対象外事業費	20,000 円	講談師打合せ (8 月 2 日、10 月 5 日、11 月 8 日)、桜美林大学説明・報告 (9 月 9 日、11 月 5 日) 各 13:00~17:00 の人件費は、助成対象事業費の 20%を超えるために対象外事業費とした。4,000 円×5 回, 20,000 円
事 業 総 額		652,310 円

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
<p>事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。</p>	<p>企画の雛型は、ある社会貢献を行っている団体のファンドレイズ企画だった。その内容は、まず海外の子どもたちの現状の動画を流し、次に弁護士または会計士による遺産・遺贈の講演、その後信託銀行や会計士による個別相談というもの。今回は、日本国内さらに地域社会で遺産・遺贈を含む個人資産を社会活用する提案を行うため、もっと身近で親しみやすいパッケージを作成することが最初の目的だった。</p> <p>これについては、高いレベルで達成できたと考えられる。NPO 中間支援組織などの専門家からの評価、参加した一般の方からの評価ともに高く、他にないものが出来上がった。</p> <p>地域性を重視した小規模企画ながら、30 名を各回の集客目標とした。2 回目以降、広報は方法を変えて試行錯誤をしながら行ったが、結果的に各回ほぼ半分の 15 名の参加に留まった。理由としては、前述の通り「資産を持っている人」が対象と受け取られがちだったが内容はもっと一般的な市民を対象としたため、そのミスマッチにあったのではないかと考えている。</p> <p>企画を通じて、新宿の市民ファンドの存在と寄付による社会貢献の新しい形を知っていただく目的については、当日参加者が多くなかったため課題を残したが、区内 60 ヶ所の施設と 102 ヶ所の掲示板に全 4 回チラシを展示したこと、新聞折込やチラシ撒き、郵送などを行ったことで、多くの区民や市民団体に団体の存在と企画趣旨の情報は届けることが出来たのではないかと考えている。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<p>大きなフォーラムで一方向的に話をするのではなく地域に根差した活動として、顔の見える形で行いたいと考えた。そのため、チラシまきや新聞への折り込み広告などを通じて、普段は NPO 活動にはあまりなじみのない方にも情報が伝わるよう工夫をし、新宿区を 3 つのエリアに分けて 4 回開催した。</p> <p>参加人数は多くなかったが、参加者と地域に届けた情報は以下となっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 区民が、市民ファンドを活用して適切な NPO を支援することによって、新宿区と社会をより良い形にする自治の新しいあり方をつくる</li> <li>2) そのことで多様なライフスタイルを尊重し、</li> </ol>

	<p>誰もが人として尊重される社会をつくる</p> <p>3) 社会的な新しい資金循環のあり方を区民へお知らせし、海外ではなく特に日本社会を対象としたこれからの寄付文化をつくる</p> <p>4) 最終的には、区民自身に対する社会福祉を区民自身がつくることのできる社会をつくる。</p> <p>すぐに効果を出すことは難しいが、今後も引き続き活動と企画を行うことで、これらの実現を図っていきたい。</p>
費用対効果は適正であったか。	<p>40万円の助成金は、主に講談師及び登壇者への謝礼と広報費に活用した。高齢者にも分かりやすく伝えるための新作講談を作成したが、その内容は今回のみならず今後も生かすことのできるもので適切だった。集客は決して多くなかったが、広報を様々な分野に広く行ったことで、この試みを多くの区民に知っていただくことができ、今後につながると思っている。</p>
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	<p>2015年1月に行われる相続税及び贈与税の税制改正は、資産家でなくとも新宿区に住居を所有している市民の多くが対象になる。そのことを伝えきれなかったことが課題だった。2014年度は、このことが大きく報道などされていくと考えられるため、区民へ情報を適切に提供できればニーズはあると考えている。</p>
理解者や支援者が広がったか。	<p>当初に想定していた、新宿区の2つの市民ファンド、非営利セクターに関心の高い税理士や弁護士などの専門家に加えて、新宿区社会福祉協議会、全国市民ファンド連絡会、桜美林大学(四ツ谷校舎)、開催エリアのいくつかの町内会にご協力をいただくことができた。</p>
事務局の執行体制は十分だったか。	<p>事務局の執行体制は十分だったが、区民ニーズと企画趣旨を照らし合わせ、集客のための細かい対応をする部分が難しかった。町内会等との関係を構築していくことで、今後は問題を解決したい。</p>
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。	<p>企画内容の基本スキームが完成したため、次年度以降は登壇者謝金と会場費以外はほぼ発生せず開催可能となった。</p>
その他	

## 4 活動の成果

今回の活動は、「寄付文化が発達していない」といわれる一方で、震災支援や歳末たすけあい募金などが積極的に行われ、寄付も集まっている日本社会で、「税優遇制度を活かした、個人の意志を反映させる寄付」を新宿区民の皆様にご存知いただく最初の一步として開催した。

今の日本の市民社会を区民自ら支援し、造っていく仕組みの提案を行うとともに、そのような考え方について同時に提案していったため、成果をすぐに出すことは難しい。しかし、このような考え方や活動は、今後の社会にとって非常に有益なものだと考えている。

この活動を進めるに当たって、多くの専門家、区内のNPO団体、新宿社会福祉協議会、大学、日本全国の市民ファンドなどから協力を得ることができた。企画を通じて、賛同者や賛同団体が増えていったことは、今後に向けた大きな成果である。今回の結果やネットワークを活かして、次年度もこのような企画を開催したいと考えている。

### \*参加者の意見抜粋

- ・「新たな資産の活かし方」という社会貢献の仕組みについて知ることができた。このことは、少子高齢社会で重要なのではないかな。
- ・若い人たちが非営利で様々な活動を活発に行っていることが印象的だった。
- ・公益法人と認定NPO法人などとの連携が遺贈寄付の社会的な受け皿として進むと、より強い力になることを再認識しました。
- ・公益活動と相続・遺贈を結び付ける具体的な方法を考えることができた。
- ・講談も非常に分かりやすく、上手で楽しめました。CCSの地道な活動に感動しました。
- ・税の軽減対象にならない団体への遺贈は厳しいことを改めて感じた。そのための「市民ファンド」のあり方が理解できた。
- ・目的を持った市民ファンドの活動と、ネットワークの姿を知ることが出来て良かった。



早坂毅税理士



神田織音さん

- \*添付資料1 4回各回のチラシ
- \*添付資料2 当日資料 (第4回)



CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会